

光、遊園地に行く
企画からシナリオまで

20240629から
20240728まで

エリー



—

目次

企画

概要	3
企画書	4
汎用ストーリー構成	9
設定	12

シーン詳細プロット

1、神崎光	19
2、水井等	21
3、ライン	22
4、図書館	24
5、招待券	26
6、遊園地	28
7、コーヒーカップ	30
8、ピザ	31
9、立体迷路	32
10、メリーゴーランド	33
11、観覧車	34
12、海	36
13、出口ゲート	37
14、記念日	39
15、誘い	40

シナリオ

1、神崎光	45
2、水井等	47
3、ライン	49
4、図書館	51
5、招待券	53
6、遊園地	55
7、コーヒーカップ	56
8、ピザ	57

9、立体迷路	59
10、メリーゴーランド	60
11、観覧車	61
12、海	62
13、占い師猫又	63
14、記念日	65
15、誘い	66
シナリオ 02	
5、社八依 (説追加)	69
6、招待券 (文 2 行追加)	71

企画

概要

コンセプトテキスト 61 文字

光のピンチを助けたことで仲良くなった等と遊園地に行き、友だちなのか、デートなのか、揺れに揺れ、帰る前に好き同士と分かる話。

ストーリーアブストラクト 283 文字

光のピンチを助けてライン交換をした等。最初はクラスメイトだから。親切な人だから。気にしてなかった。でも光はだんだん等が自分を好きか気になる。

1学期の終わりに、光は等に「遊園地のチケットをもらったから、一緒に行かない？」と誘われる。初デート？ 友だちとして？ 行けば分かるかもと承諾する。

人気アトラクションを巡り、仕草や振る舞いに一喜一憂する。きっとわたしを好き！と盛り上がるなか、「友だちだからね」と言われてしまう。

落ち込む光に、好きと言わずに好きを伝える。自分も気持ちを伝えるか悩む。誤解だったら？ 光も好きと言わずに好き伝える。

光は手帳に「初デート記念日」と書く。

企画書

0、タイトル

光、遊園地に行く

1、媒体・メディア

ブログの電子書籍で無料公開

2、企画意図（箇条書きで）

企画を立てて描写する練習する。

- 1、イチゴショートにニンニクを入れるようなチグハグをしない。
- 2、遊園地デートを最大に生かすキャラクターと展開を考える。

3、いちばんやりたいこと（テーマ・メッセージ・主張）

テーマは、甘酸っぱい体験

大人にはどうでもいいが、子どもだからアワアワする小さな出来事を楽しませる書き方をする。

たとえば

「ピザをわけあったら、具がついてきてしまった。どうしよう？」

みたいな出来事。

メッセージ

何気ない日常が大切な思い出。

主張

焦ったことほど、後から笑える。

4、世界観（ギミック・舞台設定・世界設定）

現代日本の遊園地で展開するラブコメ

5、セールスポイント

人気のアトラクションを巡る。

行ったことない読者は想像してもらおう。

行ったことある読者は自分のことを思い出してもらおう。

6、ターゲット

これから初デートを向かえる中学生

7、主要人物（キャラクター）

神崎光。高一。女。迷ったらやる性格。ひとりでどンドン行動していく。人といふことに慣れてない。

水井等。高一。男。光のクラスメイト。友だちがたくさんいて、いつも一緒に行動していた。光と話すために輪から抜け出す。

8、全体あらすじ（1000 前後）

6月の高1の教室。担任が落とし物を届けてほしいと言う。誰も手を上げない。自分がやろうと光が手をあげる。しかし届け先を間違える。バイトを遅刻するしかない！と困っているところに等が来て、代わりに届けてくれる。報告のためにラインを交換する。

翌日、光が図書館で本を読んでいると等が隣にすわる。偶然と思う。

なんとなく、一緒に帰る。わたしのこと好きなのかしら？と思う。

「話せて楽しかった」とラインがくる。

「わたしもです」と返す。

そんな日が続く。

1学期の終わりに、光は等に「遊園地のチケットをもらったから、一緒に行かない？」と誘われる。「初デート？ 友だちとして？ 行けば分かるかも」と承諾する。

コーヒーカップで、目があってしまい、互いに照れる。好きかも？なる。

ピザを半分こする。切り分けたら隣の具がついてきてしまった。アワアワする光のフォークを借りてもとに戻す。間接キス？なる。

迷路で協力して宝をゲットする。わたしたち気が合うかも？なるも、「助け合うのが友だちだからね！」と言われてへこんでしまう。

微妙な空気の中、観覧車に乗る。

友だちなんだという落ち込みと、自分も等を好きと言いきれない迷いで、無言になる。

何も言わない光に、何も聞かない等。

何を考えているか分からない。

夏休みが終わるまで会えないし、学校が始まったら気まずい。

遊園地なんて来なければよかった。

観覧車の頂点で、光は後悔する。

等が「見て」と指差す。

遠くの方に海が輝いている。

「次は海水浴に二人で行こうよ」

輝く笑顔で「夏休みの間、会えないのは寂しいから」

え？ となる。

寂しいは好きってこと？

友だちだからだよ。

「卒業しても、社会人になっても、ずっと一緒に出掛けたい。光さんは？」

光は答えることができずにうつむく。

「わたしはなんでもひとりで行動してきたから分からない」と答えてしまう。

一緒に出掛けたいのにわたしのバカ。

気まずいまま出口ゲートに向かう二人。

急に光が立ち止まる。等が気づいて振り返る。

ここでなにもしなかったら後悔する。

でも何て言ったらいいの？

「わたし、どうやってひとりで過ごしてきたのか、忘れちゃったみたい」

「僕がいるから大丈夫」

うなずき歩き出す。

家に帰った光は、寝る前に手帳に「初デート記念日」と書く。

スマホの通知が来る。

「今日はつきあってくれてありがとう。おやすみ」とメッセージ。

「誘ってくれてありがとう。おやすみ」と送る。
「図書館で一緒に勉強しない？」と送るか悩む。

誘ってくれたんだから、誘っていいはず。
言い訳しながら送信する。
すぐに「よろこんで」とメッセージがくる。

スマホを胸に抱いて、光は眠りにつく。

9、醍醐味（新規性・独自性）
作者にとっては、構成と描写の練習。

- 1、構成に起伏がある。
- 2、シーンに起伏がある。
- 3、文章に起伏がある。

1から2に持っていく時に、1と2の関係をはっきりさせてない。
なんのために2をしているのか？を意識せずにただシーンを書きがち。

2から3は、まったくできてない。詩的な表現できない。文の違いが分からない。

どうでもいいことを楽しませる文章表現を目指す。
手本は「美女と竹林」。

読者にとっては、暇潰しに読める軽さ。嫌な人が出てこない。
600文字 (E15 節=9000文字)。

汎用ストーリー構成

○オープニング

1 登場

迷ったら行動する光は雑務を引き受ける。

2 背景

しかし相手を間違えてピンチ。

3 発端

ラインに報告が来て、改めてお礼を言わないと思う。

4 目的

等と一緒に図書館で勉強して帰るのは好きだからか知りたい。

5 初動

等のデートの誘いを承諾する。

6 障害

ひとりで行動してきたからどうしたらいいか分からない。

7 助力

コーヒーカップで目が合う。好きかも？

8 達成

ピザを訳合い間接キス。好きかも??

9 難問

迷路で友だちなら当たり前言われる。ともだちなんだ。

10 無援

等の気持ちが分からなくて帰りたくなる。

11 窮地

最後に観覧車に二人で乗る。

12 光明

観覧車の折り返し地点で等に海水浴に誘われる。

1 3 勝負

出口ゲート前で、光は等に気持ちを伝える。

1 4 結末

自分にとっては初デート記念日と思う。

1 5 閉幕

図書館に誘う。

設定

世界設定

○舞台

時代、現代日本

施設、遊園地

○属人設定

生活環境、クラスメイト

○事情設定

出来事、デート

○特筆設定

秘密、互いの気持ちが分からない

恋人？

友だち？

コンセプト設定

○ストーリーコンセプト

テーマ、アトラクションを通して、好きなのか、ただの友だちか、探ろうとする。

主張、相手の気持ちも大事だけど、自分がどうしたいか必須。

メッセージ、自分からも誘っていい

お約束、人気の遊具に乗る

語り口・語り方、昔話風

○特筆コンセプト

謎、好意は感じるが、友だちだからなのか、好きだからなのか、分からない

○雰囲気コンセプト

明るい雰囲気

シリアスでいく

愛されキャラ主軸

笑わせる方向、子どもはハラハラ、大人はほっこり

キャラクター

【神崎光】

○イラスト・写真（ビジュアル。脳内イメージ）

黒髪姫カット、黒淵角メガネ

○ストーリー（エピソード1、2、3と優先順位つける）

迷ったらやると決めている。

○設定

基礎設定、本が好き

外見設定、160センチ

性格設定、行動的

能力設定、はっきり気持ちを言う

テーマ1～3、セントラルクエッション（対立、葛藤ポイント）1行

等の好意は友情か、愛情か、知りたい！

から

メインテーマ 300 字。

ピンチを救ってくれて、一緒に図書館で勉強するようになり、好意を感じる。最初は偶然思っているが、だんだん意識する。相手の気持ちを知りたいと思う。分からなくても自分がどうしたいかよ！ と覚悟を決める。

○イラスト・写真（ビジュアル。脳内イメージ）

HYDE さん。
銀髪で、長めのショート。
小柄。

○ストーリー（エピソード 1、2、3 と優先順位つける）

仲間を優先して一人で動かない。

正反対の光と話してみたい！

○設定

基礎設定、友だちの輪の中にいる

外見設定、162 センチ

性格設定、やさしい

能力設定、答えやすい言い方をする。コミュ力高い。

テーマ1～3、セントラルクエッション（対立、葛藤ポイント）1行

光に話しかけるチャンスを作るため、後をおう。

チャンスが得られるか？

信頼してくれるまで近づきすぎないようにする。

信頼されるか？

付き合えるか？

から

メインテーマ 300 字。

なるべくそばにいて、自分を知ってもらおうとする。夏休みに会えないとは寂しいから遊園地に誘う。好きと分かってほしいけど、光の気持ちも尊重したいので、好きの単語を使わずに好意を伝える。

シーン詳細プロット

1、神崎光

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

神崎光が、やるか悩んだら、やることを選ぶ。

具体的な内容(200文字~400文字程度)

校庭の花壇にアジサイが咲いている。曇り空から光が差し込んでいる。

授業が終わり先生が教室を出ようとしている。

光はひとりで帰り支度。

容姿は、黒髪の姫カット

白い半袖シャツに紺のスカート

等は友だちと集まってどこに寄るか話している。

容姿は、銀髪で長めのショート

白い半袖シャツに紺の長ズボン

担任が、用務員さんの落とし物を見つけて、「届けてくれる人」という。

誰も手を上げない。

話を聞いてない。

担任が「お前ら聞けよ！」と怒鳴る。
説教が始まりそうな雰囲気。

教室から出られなくなるくらいならやるか。

光が「わたしが届けます」と手をあげる。
担任「お、おう」

等が友だちの輪から抜けて、光の後を追う。

このセクションの、必要性を説明するなら？ 魅力を伝えるなら？

光の性格描写。迷った時に引かないというラストへの伏線。

2、水井等

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

等が、光を助ける。

具体的な内容(200文字~400文字程度)

光は、いつも駐輪場脇の植木の手入れをしている人が用務員だと思い込んでいた。しかし、ボランティアのおじさんだった。用務員がどこにいるか分からない。バイトの時間が迫っている光は、遅刻の連絡をしようとする。

等が代わりに届けるといふ。報告するからラインを交換しようといふ。

光はびっくりする。
そんなにはなしたことないのに、教えていいのか悩む。

遅刻と個人情報を天秤にかけて、ラインを教える。

このセクションの、必要性を説明するなら? 魅力を伝えるなら?

等の性格描写。コミュ力が高い。警戒を解いて上手に近づく。

3、ライン

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

等から光に報告のラインが来る。

具体的な内容(200文字~400文字程度)

バイトが終わって、ラインを見ると、用務員さんとのツーショット写真が来ている。

「落とし物、お届け、完了！」

「ありがとうございます」と返事を返す。

よく見たら等ってかっこいいかも?と思う。

まじまじと顔を見ることはないから気づかなかった。

きちんと報告して安心させてくれるコミュ力の高さといい、見た目の派手さと違って、すごくいいやつに思える。

だんだん等が気になり始める。

翌日、光は等に昨日のお礼を言おうと思う。しかし、いつも友だちに囲まれているので、なかなか言えない。

あきらめて、図書館に向かう。

光に気づいた等が、後からついていく。

このセクションの、必要性を説明するなら? 魅力を伝えるなら?

光が、等を意識するようになった。

4、図書館

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

光と等が図書館で一緒に勉強して、帰り道に話す。

具体的な内容(200文字~400文字程度)

光が図書館で勉強していると、等が隣に座る。話せないので会釈する。

光が帰ろうとすると、等も席を立つ。

帰り道、並んで歩く光と等。

同じくらいの身長。

光 160センチ

等 162センチ

光「昨日は助かりました。ありがとう」

等「お役に立てて嬉しいです。光さんはいつも図書館で勉強しているの？」

光「バイトのない日はそうです。家だと誘惑が多いから」

等「そうだね。俺も明日から隣で勉強するよ」

立ち止まる等。

等「俺、こっちなんで。また明日！」

光「また明日」

光は「わたしのこと好きなのかしら？」と気になり始める。

その日から図書館で勉強して、「話せて楽しかったよ。おやすみ」のラインが来る。
「わたしもです。おやすみ」と返して眠るようになる。

このセクションの、必要性を説明するなら？ 魅力を伝えるなら？

5、招待券

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

等が光を遊園地に誘い、光が承諾する。

具体的な内容(200文字~400文字程度)

1学期の終わりに、一緒に帰る光と等。

等が、光に言う。

「遊園地の入場料無料チケットもらったんだけど、よかったら一緒にいかない？」

デート？

友だちとして？

光が答えられずにいる。

「行けそうな日をラインしてくれると嬉しいな」

反射的に「はい」と答えてしまう。

家に帰り、手帳とにらめっこ。

ていうか、行くの？

行けば友だちなのか、好きなのか、分かるかも？

7月の空いている日をリストアップして、ラインする。

一番早い日に決まる。

このセクションの、必要性を説明するなら？ 魅力を伝えるなら？

等のコミュ力の高さと、

光の行動力が、
キャラクターの魅力。

6、遊園地

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

いつも一人で行動してきた光は、支払いや乗り物を決める方法が分からない。

具体的な内容(200文字~400文字程度)

遊園地のゲート前で待ち合わせる。

光は濃い水色の半袖シャツに、濃い青色のキュロットスカート。
等は真っ赤なTシャツに、青いジーンズ。

入場料は遊園地のチケットで無料。
乗り物や食事はその都度払う。

バイト代は本に使いたいなあ。
でもせっかく来たんだし。

迷っていたら、乗り物券を買って、等が光にくれる。
光「おごってもらわねえにはいきません！」
等「俺が誘ったんだから、俺が払うよ」
光「でも……」
等「何に乗ろうか？」

意見を言うべきか悩む。

もじもじしている。

等「光さんの顔が見たいからコーヒーカップによろ！」

光「はい」

反射的答えてしまう。

顔が見たいってどういうこと？

このセクションの、必要性を説明するなら？ 魅力を伝えるなら？

人慣れしてる等と、慣れない光の対比。こんな風にリードされたい。

7、コーヒーカップ

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

光と等が、コーヒーカップに乗って見つめ合う。

具体的な内容(200文字~400文字程度)

コーヒーカップに乗り、等を振り向くとじっと見ている。

照れて目をそらす。

もう一度、見るとニコッとする。

これはぜったい好きかも!?

照れてうつむき一人で真っ赤になる。

終わってほしいけど、終わってほしくない。

回るカップと一緒に、自分の気持ちもくるくる巡る。

このセクションの、必要性を説明するなら? 魅力を伝えるなら?

こっぴどかしい甘酸っぱさが、高校生らしい魅力。

8、ピザ

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

ピザをわけあい、間接キスする。

具体的な内容(200文字~400文字程度)

光と等は、違う種類のピザを買って、相手のピザを味見することになる。

飲み物も買う。

光は自分で買おうとするが、等が払ってくれる。

まず自分のピザをフォークで食べる。

交換することになり、等のピザを1つ取ったら、隣の具もついてきちゃった!

光はあわあわする。

等が、光にフォークを借りて、具を押さえる。

光「ありがとう」

間接キス!?

好きだから?

友だちでも同じ鍋を食べるか。

告白されちゃうのかな?

期待でドギマギする。

このセクションの、必要性を説明するなら? 魅力を伝えるなら?

等の機転。

9、立体迷路

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

立体迷路で助け合いクリアする。

具体的な内容(200文字~400文字程度)

光は、自分を見せるようになる。

自分がやりたい立体迷路に誘う。

すべての宝箱を取るために、二人で作戦を立てて、アイテムを全部ゲットする。

光「協力してくれてありがとう」

等「友だちなら当然」

立ち尽くす光。

わたしたち友だちなのか？

わたしを好きな訳じゃないんだ。

急にしょんぼりして、光は無口になる。

このセクションの、必要性を説明するなら？ 魅力を伝えるなら？

小さなことで揺れる心が、若者の特徴。

10、メリーゴーランド

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

メリーゴーランドの馬車に二人で乗る

具体的な内容(200文字~400文字程度)

等が、光をメリーゴーランドに誘う。

馬に乗ろうとする光を、等が馬車に連れていく。
スマホでツーショットを自撮りするが、固い表情の光。

友だちだから隣に座るだけだよね。
友だちだもんね。
相手の気持ちを受け入れようと必死に押さえる。

このセクションの、必要性を説明するなら? 魅力を伝えるなら?

一番楽しい瞬間なのに、光は笑うことができない。

11、観覧車

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

夕焼け時の観覧車に乗る

具体的な内容(200文字~400文字程度)

後ろをとぼとぼ歩く元気のない光を気にして、等が声をかける。

夕焼けの観覧車に乗ろうと等が誘う。

曖昧に微笑んで、光がうなづく。

わたしなんかと来て、つまんなかったかな。

こんな態度とって、きっともう誘われることはないよね。

好かれているか気にしてたけど、等さんが好きなんだろうか？

自分の気持ちが分からない。

無言のまま観覧車の頂点に向かっていく。

光は全然景色を見てない。

景色を見ている等を見ている。

このセクションの、必要性を説明するなら？ 魅力を伝えるなら？

光が初めて自分の気持ちに目を向ける。

12、海

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

等の誘いを、光がかわす。

具体的な内容(200文字~400文字程度)

外を見ていた等が、突然、振り向く。
目があってしまいキュンとする。

海をさして言う。
「今度は一緒に海水浴に行きたいな」
素直になれない光は強がりと言う。
「わたしはなんでもひとりで行動してきたから分からない」と答えてしまう。

恋人を否定されることを恐れて、素直になれない自分に腹が立つ。

このセクションの、必要性を説明するなら? 魅力を伝えるなら?

互いに好きなのにすれ違ってしまふ。

13、出口ゲート

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

光が、勇気を出して自分の気持ちを言う

具体的な内容(200文字~400文字程度)

こんな気まずいまま帰るの？
次の約束もないままでいいの？

迷ったら行動の光は、立ち止まり、等の注意を引く。

どう言葉にしたらいいんだろう？
なにか言いたげに沈黙する光を、等は黙って待つ。

光「わたし、どうやってひとりで過ごしてきたのか、忘れちゃったみたい」
等「僕がいるから大丈夫」

友だちでも、恋人でもいいや。
わたしたちはこれから！

このセクションの、必要性を説明するなら？ 魅力を伝えるなら？

付き合いが浅いのに「好きです。付き合ってください！」と言ったら壊れそうで、お互いに慎重に育みたい。

14、記念日

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

手帳に、初デート記念日と書く。

具体的な内容(200文字~400文字程度)

お湯に浸かり、1日を振り返って、幸せな気持ちになっている。

母親に「初デートどうだったの?」と聞かれて、「そんなんじゃないよ。友だちだもん」と答える。

しかし、部屋に戻り、手帳に「等さんとの初デート記念日」とメモする。

このセクションの、必要性を説明するなら? 魅力を伝えるなら?

光が、「これは恋」と認める。

15、誘い

内容を一言で書く。(登場人物)が(どうなる・どうする)

光が、図書館で勉強しようと誘う。

具体的な内容(200文字~400文字程度)

翌日、光が一人で学校の図書館に行こうとする。

そうだ。等さんを誘おう。

迷惑かな？

用事があるかな？

でも会いたいし。

メリーゴーランドのツーショット写真が送られてきている。

自分より等に目がいく。

よし！

送る決意をする。

打ち込む。

「図書館で一緒に勉強しませんか？」

でも勇気がでない！

メッセージを送信するか迷っていたら、「まだいたの？」と母親に声をかけられた拍子に送信ボタンを押してしまう。

「あ！」

すぐに返信が来る。

「俺も誘おうと思った。誘ってくれて嬉しい」

ニコニコで、光が出掛けていく。

このセクションの、必要性を説明するなら？ 魅力を伝えるなら？

光からも誘うようになって、ちょっと仲が進展した。

シナリオ

1、神崎光

○校庭の花壇、1530 ころ

アジサイが咲いている。

葉っぱの上にカタツムリが1匹いる。

もう1匹のカタツムリが現れて、近づいていく。

○校庭、1530 ころ

グレーの曇り空から、光がいく筋も差し込んでいる。

○教室、1530 ころ

窓際が一番前で、黒髪の姫カット、黒淵角メガネの神崎光が帰り支度をしている。

白い半袖シャツに紺のプリーツスカート。

教室の真ん中では、銀髪、長めのショートの水井等が友だちに囲まれて話している。

白い半袖シャツに紺の長ズボン。

教壇の担任がしゃがんで、立ち上がる。

担任「用務員さんの落とし物だな。届けてくれる人！」

誰も振り向かない。

光はスマホのメモを見る。バイトは16時から。今は15時30分。

光の声「10分で終われば間に合うけど……」

しびれを切らした担任が、いらっとした顔で怒鳴る。

担任「返事くらいしよる」

担任が息を吸い込む。

光の声「長い説教きそう。それならわたしが」

光が手を上げる。

光「わたしが行きます！」

引ったくるように受け取り、走り出す。

光「植木のおじさんにとどければいいんですね！」

もういない。

担任「植木のおじさん？」

行き違っていることを察した等が、担任に聞く。

等「用務員室に届けるんですか？」

担任「ああ。伝えてやってくれ」

等「はい！」

等が光の後を追う。

2、水井等

○学校・全景

奥に校舎。

間に下校する生徒。

手前に校門と生け垣。

○校門前

門の横に広がる植木をザクザクおじいさんが切っている。

生徒たちが挨拶していく。

光が走ってくる。

光「用務員さん、落とし物です」

アゴに手を当てるおじいさん。

おじいさん「わしゃあ、ボランティアのじじいなんだわ」

光「ちがうんですか？」

おじいさん「こう、葉っぱをザクザク切るのが好きでなあ」

切ってみせるおじいさん。

固い微笑みを返す光。

等の声「俺が用務員室に届けるよ」

振り返ると等が立っている。

等「光さん、用事があるんでしょ？」

うなづく光。

光「でもわたしが引き受けたのに」

等「ちゃんと報告するから安心して。ラインを交換しよう」

等がスマホを差し出す。

光の声「よく知らない男子とこんなことでラインを交換していいの？」

おじいさんが参加してくる。

おじいさん「安心せい。この子はいいいこじゃぞ」

等「信じて」

うなづく光、スマホを差し出す。

光「お願いします」

落とし物を等に渡す。

等「任せて」

頭を下げて、光が走り出す。
校舎に戻っていく等。

3、ライン

○居酒屋・店内 (夜)

満席。

賑わっている。

○居酒屋・キッチン (夜)

光がポテサラの盛り付けをしている。

お腹が鳴る音。

恥ずかしそうに光が周りを見回す。

みんな黙々と働いている。

再び盛り付けに集中する。

○住宅街の道路 (夜)

光が早歩きしている。

○自宅のキッチン (夜)

光がレンジからカレーライスを取り出す。

テーブルに運ぶ。

バクバク食べる。

光「ふー。生き返った！」

スマホを取り出し、ラインを開く。

水井等のメッセージ2件。

1件目は用務員さんとのツーショット写真。

2件目は「届けました！」のメッセージ。

急いで「ありがとうございます」と返す。

写真を拡大して等の顔を見る。

光の声「よく見るとフランス人形みたい。きれい」

水を汲んで飲む。

光の声「ちゃんと報告してくれたり、コミュ力高い人なのね。どうりでいつも友だちに囲まれてるはず」

コップとお皿を洗う。
光の声「明日、改めてお礼を言わなくちゃ」
楽しげな光。

○教室(朝)

登校する光。
等は友だちと話している。
光の声「割り込んでお礼をいうのはおかしいよね。後にしよ」
始業のチャイムが鳴る。

○校庭

等が友だちとサッカーをして遊んでいる。

○教室の窓際

光が等を見ている。
光の声「一人にならないな」
等がゴールを決める。
自然とにっこりする光。

○学校・全景

終業チャイム鳴る。

○教室

等に近づこうとする光。
友だちが割り込んで、等に話しかける。
光の声「いつも一人で行動しているから、声をかけるタイミングがつかめない」
胸元で片手を握りしめる光。
ため息をついて、背を向ける。
荷物を持って教室を出ていく。
等「ごめん、また後で」
等も教室を出る。

4、図書館

○図書室・室内

2、3人の生徒が黙って勉強したり、本を読んでいる。

机が並んでいて、結構空いている。

光が来て席に着き、勉強する。

等が入ってきて、光の隣に座る。

互いに軽く会釈する。

光の声「図書室では話せない。どうしよう」

等を見ると視線に気づいて微笑み返してくる。

ドキッとしてしまう。

光の声「写真見てきれいと思ったことはばれてないはず」

窓の外に目をやる。

○校庭の花壇

2匹のカタツムリが、アジサイの葉の上で、寄り添っている。

○図書室・室内

光が宿題を終えて片付け始める。

等も片付け始める。

一緒に席を立つ。

○下駄箱

靴に履き替える光と等。

光 160 センチ。

等 162 センチ。

ほぼ同じくらいの身長。

目線が合う。

光「昨日は助かりました。ありがとう」

等「お役に立てて嬉しいです。光さんはいつも図書室で勉強しているの？」

光「バイトのない日はそうです。家だと誘惑が多いから」

等「そうだね。俺も明日から隣で勉強するよ」
なんとなく一緒に歩き出す。

○通学路・全景

並んで歩く光と等。

等「宿題終わったし、今夜はゆっくりできそう」

光「いつも寝る前にしていたの？」

等「そう。きりぎりまで友だちと遊んで、半分寝ながらやってた」

光の声「今日は友だちはいいのかしら？」

等が立ち止まる。

等「俺、こっちなんで。また明日！」

光「また明日」

しばし見送り、歩き出す。

光の声「わたしのこと好きなのかしら？」

首を横に振る。

○光の自室・ベッドの上(夜)

電気を消す。

寝ようとする通知鳴る。

「話せて楽しかったよ。おやすみ」と等からラインが来る。

「わたしもです。おやすみ」と光が返す。

光の声「楽しかった言われると安心する。ほんとコミュ力高い」

にっこり笑って目を閉じる。

5、招待券

○教室

光と等がいる。

担任「はい、一学期終了。遊び過ぎんなよ！」

歓声上がる教室。

光が教室を出る。

等が後を追う。

○通学路

光と等が並んで下校する。

光の声「夏休みになったら会えなくなる。ずっと学校ならいいのに」

立ち止まる等。

何かを出そうとする。

紙を2枚見せる。

等「遊園地の招待券をもらったんだけど、一緒にいかない？」

光「え!？」

手を振りながら去る等。

等「行ける日ラインして」

光「はい」

等を見送る光。

○自室(夜)

勉強机に座り、手帳とにらめっこする光。

紙に予定を書き出す。

光の声「デートなのかな？ ただの友だちなのかな？ 好かれてはいるだろうけど……」

ラインに入力する。

光の声「行けば分かるはず」

メッセージを送信する。

すぐに返信が来て、一番早い日の午前10時にゲート前で待ち合わせに決まる。

光の声「決断が早い。仕事できそう」

どんなアトラクションがあるかググる。

6、遊園地

○遊園地のゲート前 (午前10時頃)

湖のそばにある大観覧車が有名な地方の遊園地。

光は濃い水色の半袖シャツに、濃い青色のキュロットスカート。

等は真っ赤なTシャツに、青いジーンズ。

入場料は遊園地のチケットで無料。

乗り物や食事はその都度払う。

光の声「バイト代は本に使いたい。でもせっかく来たし、いくら買う？」

光が迷っていたら、乗り物券を買って、等が光にくれる。

光「おごってもらうわけにはいきません！」

等「俺が誘ったんだから、俺が払うよ」

光「でも……」

等「何に乗ろうか？」

光は意見を言うべきか悩む。

もじもじしている。

等「光さんの顔が見たいからコーヒーカップによろ！」

光「え？ はい！」

反射的答えてしまう。

光の声「顔が見たいってどういうこと？」

振り返ると片隅に「猫又のイエスノー占い1回100円」の張り紙がある。

光の声「遊園地で占い！？ 楽しみに来た人が悩みを相談するかしら？」

一瞬、疑問に思う。

しかし振り向いた瞬間、忘れてしまう。

7、コーヒーカップ

○コーヒーカップ乗り場前

列に並んでいる。

光の声「コーヒーカップって見つめ合うために乗るもの？」

入場が始まる。

光を先に入らせ、出口側に等が座る。

対面する光と等。

光は、等のことをすごくきれいだと思う。

思ったことが伝わりそうで恥ずかしくなる。

うつむき、たまに顔をあげる。

等が光を見ていてにっこりする。

ドキッとして横を向く。

等「横顔もかわいいね」

ビックリして振り返る。

真面目な顔に驚く。

光の声「本気で言っているのかしら？」

「等さんもかっこいい」と言おうとして、「それでは自分をかわいいと認めたみたいでは？」と葛藤する。

言いたそうと言わない光。

等「言いたいことがあるなら言ってね」

光「等さんの方がきれいだと思う」

等がウインクしてくる。

等「俺ら美男美女だね」

あたふたする光。

等「行こうか」

手を差し出され思わず繋いでしまう。

光の声「恋愛の好きなのかな？」

光は期待でどきどきする。

8、ピザ

○フードコート前

空いている。

等「混む前に昼ご飯食べちゃおう。お腹空いてる？」

光「はい！」

フードコートに入る等と光。

○フードコート・レジ前

ピザやサラダなどファストフードメニューが並んでいる。

等「サラダ2つと飲み物2つとピザLをわけるでいい？」

光「はい、今度はわたしが払います！」

財布を出す光。

等「気持ちだけ受け取っておくよ」

電子マネーでピッと支払う等。

○フードコート・座席

二人席に向い合わせで座る光と等。

光にサラダと飲みものを渡す。

光「ありがとう」

光も等もフォークでサラダを食べる。

等「やっぱり光さんも野菜から食べるんだね」

光「ええ」

二人ともやせ形なだけあると思う光。

少しでも役に立とうとピザを取り分けようと真ん中で分ける。

光「あ！」

隣の具がチーズと一緒についてきてしまう。

固まってしまう光。

等「フォーク貸して」

光のフォークを受け取り、具を戻す等。

光にフォークを返す。

そして取り戻した具のピースを食べ始める。

光の声「間接キス!？」

気づかないふりで光も食べ始める。

光の声「使ったフォークが嫌でないのは好きだから？」

光は考えすぎてピザの味が分からない。

光の声「友だちでも一緒に鍋を食べるか……」

手をふき、光がアイスレモンティーを飲む。

等「そっちは紅茶だっけ？ 俺のアイスコーヒーと交換する？」

等が紙カップを差し出してくる。

光の声「それは完璧に間接キスでは!？」

交換に応じる光。

等「甘酸っぱくていい香り。光さんみたいだね」

等のコーヒーを飲む光。

光「等さんはブラックって感じじゃないかな。優しいもの」

等「だよ。俺、ちっちゃいし、あまあまカフェオレってイメージでしょ？」

吹き出す光。

等「俺、かわいい？」

うなづく光。

光「ええ、とっても」

等「かわいい同士だね」

等に真顔で言われて、笑い転げる光。

楽しそうな光を見つめる等。

9、立体迷路

○立体迷路前

景品は5種類の小鳥のフィギュア。

目にした光は大興奮。

光「全部ほしい！」

等「二人で協力すればいけるよ」

等が光に耳打ちする。

○立体迷路・中

宝を開ける光。

4つのコインを持っている。

○立体迷路・出口

光が待っている。

1分前に等が最後のコインを持ってくる。

光「やったー！」

思わず等に抱きつく。

○立体迷路・景品交換所

5つのフィギュアを手に入れた光は、とても嬉しそう。

光「難しい方を等さんが取ってくれたから。ありがとう」

等「4つ回った光さんの方が大変だったでしょ？ おつかれさま」

改めてフィギュアを見る光。

光「このシリーズ、前からほしかったの！」

等「友だちなら協力するのは当然！」

フィギュアを落としそうになる光。

光の声「友だち？」

うつむき、黙り込む光。

10、メリーゴーランド

○メリーゴーランド前

グルグル回転している。

わたしの心みたい。目まぐるしく回転している。

等「乗りたいの？」

光「別に」

光の手首をつかむ等。

等「俺、乗りたい。行こう！」

つれていかれる光。

○メリーゴーランド・中

馬に乗ろうとする光。

等「二人で来たんだからこっちでしょ！」

等が馬車に乗り込み手招きしている。

光の声「友だちなら一緒に乗るもんね」

馬から降りて等の隣に座る。

動き出すメリーゴーランド。

等がスマホを出して自撮りしようとする。

等「光さん、笑って！」

固い笑顔の光。

シャッター音が鳴る。

○メリーゴーランド・出口

帰りたいと言おうか悩む光。

等「最後に大観覧車に乗ろうよ」

うなづく光。

11、観覧車

○観覧車・全景(夕焼け)

赤くなりかけた空に、観覧車がそびえたっている。

○観覧車・乗り場

黙って並んでいる光と等。

順番が来て乗り込む。

○観覧車・中

黙って外を見ている等。

表情は見えない。

等の後ろ姿を見つめる光。

光の声「わたしと来てもつまらなかったかしら？」

笑い合った瞬間を思い出す。

光の声「まだ友だちという意味かもしれないのに……こんな態度最低だ」

膝の上で拳を握りしめ、光は泣きそうなのを我慢している。

光の声「そういえば等さんがわたしを好きかばかり気にしてたけど、わたしは等さんが好きなの？」

後ろ姿を見つめて自問する。

光の声「分からない。ピンチを助けられて、一緒に勉強しただけだもの。何も知らない」

うつむく光。

光の声「一人で浮かれてバカみたい」

光の目から涙が一滴落ちる。

12、海

○観覧車・中

頂点に達した時、外をみていた等が振り返る。

目があってしまいキュンとする。

光の声「わたし、たぶん、等さんが好きなんだわ。でも言えない」

慌ててうつむく。

等「見て。海だよ」

光が顔を上げると湖の向こうに太平洋が広がっている。

等が海を指して言う。

等「今度は一緒に海水浴に行きたいな」

素直になれない光は強がりと言う。

光「わたしはなんでもひとりで行動してきたから分からない」

びっくり顔の等を見て、光は切なくなる。

光の声「否定されることを恐れて、素直になれない自分に腹が立つ」

膝を拳で叩く光。

光の声「わたしの意気地無し」

「占い師猫又」のポスターを見つける光。

光「記念にわたしたちの相性を占ってみたい？」

等「いいね。行こう」

観覧車を降りる光と等。

13、占い師猫又

○占いの館前 (暗くなりかけ)

でっかいキャットハウスみたいな建物。

「占い師猫又のイエスノー占い100円」のポスター。

占いの館・鑑定席

猫耳のカチューシャをした猫又の前に座る光と等。

光「相性を見てください」

猫又「タロットのエーススプレッドでパーセントを占うにゃん」

過去はペンタクル5逆。

猫又「一時的なよい兆し」

今はワンドエース正。

猫又「付き合いに夢中になる」

未来はペンタクルエース逆。

猫又「勢いではじまった恋」

顔を見合わせる光と等。

猫又「出てないのはソードとカップ。付き合う理由と気持ちがあやふや」

エース2枚を指す猫又。

猫又「相性は50%くらい」

ペンタクル5逆を指す猫又。

猫又「出オチ感があるというか、一緒にやるのはいいけど、きちんと気持ちを伝えないとダメよ」

うんうんとうなずく光。

光「ありがとうございました」

立ち去る光と等。

○ゲート前 (暗くなりかけ)

出口に向かって歩き出す光と等。

光「わかるような、分からないような結果だったね」

等「そうだね。帰ろうか」

立ち止まる光。

振り返る等。

光「わたし、どうやってひとりで過ごしてきたのか、忘れちゃったみたい」

等「僕がいるから大丈夫」

何度もうなずく光。

手を差し出す。

等が手を取り、つないで歩き出す。

14、記念日

○自宅の風呂場(夜)

湯船につかってニヤニヤしている光。

つないだ方の手を見ている。

ほほに当てる。

○台所(夜)

ヤカンから常温の麦茶をコップに注ぐ。

髪をふきながら、光が麦茶を飲んでいると母親が来る。

母親「初デートどうだったの？」

光「そんなんじゃないよ。友だちだもん」

ハッとすする。

光の声「友だちとわたしもいうわ。意味なんてなかったのね！」

楽しそうに部屋に去る。

○自宅の自室(夜)

ネグリジェ姿で、光が机に向かう。

手帳を広げている。

月間表に「等さんと初デート記念日」と書き込む。

15、誘い

○自宅の自室・ベッドの上

光がメッセージを打っては消してる。

通知音が鳴る。

メリーゴーランドのツーショット写真が送られてくる。

「楽しかったです。また行こうね」

「わたしも楽しかったです。また行きたいです」

スマホを胸に当てる光。

光の声「明日、図書館に誘いたいな。でも……」

とりあえずメッセージを打ち込む。

「明日、一緒に図書館で宿題しませんか？」

送信ボタンにあと1ミリ。

母の声「まだ起きているの？」

押してしまう。

光の声「あ！」

心臓がドキドキする。

通知音。

「俺も誘おうと思ってた。誘ってくれて嬉しい」

光「よし！」

枕を抱きしめる。

○自宅・玄関(朝)

制服を着た光が、ニコニコで出掛けていく。

シナリオ 02

5、社八依 (説追加)

○自宅ベッド (夜)

光がうなされている。

光の声「幼稚園の頃の夢を見た」

○自宅の居間 (回想、昼)

箱からブロックを出す3歳の光。

玄関チャイムが鳴る。

社 八依 (やしろ やえ) 3歳が現れる。

ブロックに近づいてくる。

光「一緒に遊ぶ？」

八依は無言、無反応でブロックを組み立て出す。

後ろから八依の母親が現れる。

八依の母親「光ちゃん、こんにちは。八依と遊んであげてね」

光「はい」

そういうと去る。

○台所 (回想、昼)

光が台所を覗くと、八依の母親が泣いている。

光の母が背中をさすっている。

○居間 (回想、昼)

ブロックでお城を完成させた光。

光「見て見て！」

八依は知らん顔で小さな人形を作って遊んでいる。

光「お人形？ かわいいね」

光を無視して遊び続ける。

光の声「来たくないのに無理矢理連れてこられたのかな？」

無口で無反応な八依を持って余して、自分の母親を呼びに行く。

○自宅の台所 (回想、昼)

八依の母親がまだ泣いている。

光「ママ、お城できたの見て！」

光の母親「あとでね」

つまらなさそうに居間に戻る光。

○自宅の台所 (回想、夜)

母親が一人でごはんの支度をしている。

光「八依ちゃん、光と遊びたくないんだと思う」

光の母親「光はどうなの？」

うつむく光。

光「なに考えているか分からないから怖い。明日もくるなら遊びに行っていていい？」

困った顔の光の母。

光の母「……いいよ」

パッと明るくなる光。

○自宅のベッド (夜)

光が目を覚ます。

外はまだ暗い。

光の声「八依ちゃんは知らない間に引っ越してしまった」

布団に起き上がり、額を押さえる。

光の声「その後できた友だちも、誘えば無理矢理付き合ってくれる」

光の目から涙が一粒こぼれる。

光の声「つまらないのを我慢させるくらいなら一人がいい」

スマホを開く。

光の声「でも等さんは、話せて楽しかったと言ってくれた」

スマホをぎゅっと抱きしめる。

6、招待券 (文 2 行追加)

○教室

光と等がいる。

担任「はい、一学期終了。遊び過ぎんなよ！」

歓声上がる教室。

光が教室を出る。

等が後を追う。

○通学路

光と等が並んで下校する。

光の声「夏休みになったら会えなくなる。ずっと学校ならいいのに」

立ち止まる等。

何かを出そうとする。

紙を2枚見せる。

等「遊園地の招待券をもらったんだけど、一緒にいかない？」

光「え!？」

追加

相手から誘ってくれたのが初めてだから驚く。

光の声「等さんも会いたいんだ！」

手を振りながら去る等。

等「行ける日ラインして」

光「はい」

等を見送る光。

○自室 (夜)

勉強机に座り、手帳とにらめっこする光。

紙に予定を書き出す。

光の声「デートなのかな？ ただの友だちなのかな？ 好かれてはいるだろうけど……」

ラインを入力する。

光の声「行けば分かるはず」

メッセージを送信する。

すぐに返信が来て、一番早い日の午前10時にゲート前で待ち合わせに決まる。

光の声「決断が早い。仕事できそう」

どんなアトラクションがあるかググる。

「光、遊園地に行く」企画からシナリオまで

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
